

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI



Monthly Theme

ジャングル生活に戻りませんか？ 石垣島で実際に計画中の 隠遁型リゾートコテージ

従来のニッポン的な“物見遊山”ではなく、
本質的な意味で“素”の自分に戻る、“何もしないリゾートライフ”のための家。
石垣島の亜熱帯林をベースに考えてみました。
先住民の作法に学ぶ、ニューエコロジーの住処なのです。

現代人の生活は忙しすぎる！という言葉も、50年以上聞き続けていますが、昨今は空中を飛び交う情報量が更に増え、いつも何かに追われているような精神状態の生活。
2020年オリンピックイヤー冒頭、岐路に立つニッポンですから、多少警めいたことも含めてご提案したいと思えます。それは「とにかく一度、ジャングルに戻ってみませんか？」ということ。とは言え、今更狩猟生活に戻るのには難しい。なので、せめて森に滞在して自然と共存する先住民の作法に心を満たし、熟して落ちてきた果物をみんなでシェアする。そんな静かな余暇を過ごすために考えたのがこのプランです。

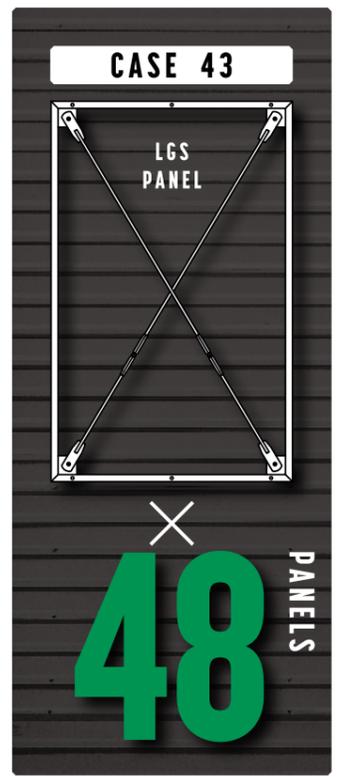
企画をしていくうちに、この家は何か似ている……。そう、ミッドセンチュリーの代表的建築、あの「イームズハウス」です。イームズ本人はむしろ我がニッポンに憧れを持っていました。障子やふすま、枯山水の庭。南天の盆栽など、ニッポン人の立ち振る舞いに、自然との共存の作法を見て取ったのです。しかし、今のニッポンは今や世界に冠たる自然破壊先進国。それではもう地球も人間も保たない。現代人は昨今のアウトドアのブームを体験する中で、少しずつジャングルに戻ることを考え始めているのかもしれない。
しかし、その生活は気合を入れないと続きません。少しでも気を抜くとすぐ活発な植物たちが生活空間に侵食してきますから。でもその管理を続けることが、生活であり、先住民の作法であり、自然との共存なのです。この建物はいわゆる貸別荘リゾートハウスとして石垣島をモチーフに計画をしています。



ROOM

仕事部屋としての書斎のイメージ。鬱蒼たるジャングルを実感しながら都会と通信するのが近未来的。でも生活態度はあくまで先住民の作法に倣う謙虚なスタンスなのです。椅子や机も長年買い替えることがないように、最初に天然木のしっかりしたものを買いそろたい。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ

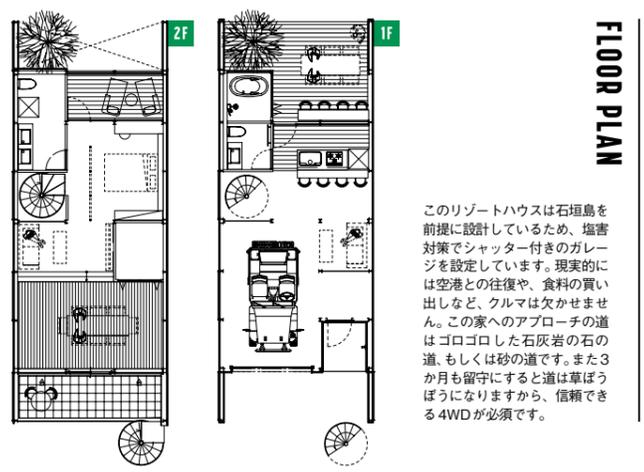


What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パワーコーディングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

● INFORMATION
LDKinc.
代表:玉田 敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。



島の生活に必要なことだけを抽出するとプランは一気にシンプルになり、外観上はイームズハウスを現代的に解釈したものになりました。デイトナハウスの鉄骨パネルを駆使したシステム建築だからこそ、密林の中にも運び込めるのです。

FLOOR PLAN
このリゾートハウスは石垣島を前提に設計しているため、塩害対策でシャッター付きのガレージを設定しています。現実的には空港との往復や、食料の買い出しなど、クルマは欠かせません。この家へのアプローチの道はゴロゴロした石灰岩の石の道、もしくは砂の道です。また3か月も留守にすると道は草ぼうぼうになりますから、信頼できる4WDが必須です。

Photo/Ken TAKAYANAGI Text/Atsushi TAMADA

1F SHOWROOM

東洋と西洋が融合する
伸びやかな1F内部空間

屋根を支える、力感あふれた鉄骨梁のリアルな印象を実感させてくれる1Fの内部空間。中庭に設けられた植栽や最奥の螺旋階段の曲線美も重要なアクセントとなっています。ダイニングキッチンからくつろぎのリビングスペース、そしてスタイリッシュなガレージまでが一体となった空間。この伸びやかさはデイトナハウスならではの持ち味なのです。



この家の見せ場は何と言ってもリビングスペースとガラスの間仕切りで接したガレージ空間。デイトナハウスの特徴的な装備である「FASブラケット」を最大限に利用して、カッコよく合理的な理想的ガレージ空間を演出して見せてくれます。格納するマシンや、棚状のディスプレイによって、空間のイメージは様々な顔に。まさに自分好みの空間に変身するです。



GARAGE

遊びのギア達が
格納される
ガレージスペース

母屋の向かって右側にあるガレージスペース。この場所にはハーレーのソフテイルをはじめ、各種アウトドアギアが格納されています。まさにこの場所は、遊びの発信基地。ガレージからもリビングにエントリーできるのも特徴です。



2F ROOM

“離れ”を彷彿させる
ホビールームも完備

デイトナハウスオリジナルの螺旋階段を上ると、2Fには青空独り占めのルーフトラスに面したプライベートルームが完備。しかもその対面には“離れ”のような位置づけのホビールームが設定されています。建物の外観を特徴づける、ルーフトラスに面した至福のホビールーム。理想的な距離感なのです。



デイトナ不動産



愛媛県のモデルハウスが提案する “新しいカッコよさ”の定義

愛媛県西条市にこのほどオープンしたデイトナハウスのモデルハウスは、シュールでクールな外観と豊かなライフスタイルを反映したインテリアが高次元に融合した新機軸の空間を実現。ここには、今まで見たことのない新鮮な驚きがあります。

知識や情報が気軽に検索できる社会が到来して、新しさや懐かしさ、柔らかさと堅牢さ、西洋的と東洋的など、今まで反対のこととイメージされていた事柄が高次元に融合する。新しいカッコよさ。が、いるんな分野で可能になってきた。そう感じている人も少なくないことでしょう。愛媛県西条市にこのほどオープンしたデイトナハウス×LDK愛媛のモデルハウスは、一つの言葉では語りつくせない、新しいカッコよさを体現しているかのようです。

外観は一見、ドイツの建築かと思うほど研ぎ澄まされた印象。必要のみで合理的に構成されたシルエツトが、丸目のヒストリックカーとの相性も抜群。人気の最新新ストーブ「アイアンドック」の外部煙突が、ワンポイントとなってインダストリアルな印象をより際立たせています。

一方で内部空間は、アンティーク家具の木質系が多いのがポイント。デイトナハウス特有の持ち味。艶消し黒の鉄骨空間のタイトな緊張感に、適度な緩さと暖かさをプラスして新境地の居心地の良さを作り出しています。一般には正反対と思われるこれらの二つのデザインボキャブラリーが相乗効果を生み出し、そして脳細胞を刺激する感覚。それが2020年代の、カッコいい!!なのかもしれません。加えて大切なことは、長い間愛着を持続させてくれる深みがあることです。

このモデルハウスはいつでも見学可能となっています。新感覚の、カッコよさを体感してみてくださいいかがでしょうか？

DETAILS

一見ワイルドに見えるデイトナハウスですが様々な緻密なディテールを用意しています。電気関係には工業的な素材を使って愛着を増幅するアイデアが随所に見られるなど、特にこのモデルハウスのこだわりには脱帽です。売っているものをそのままでは使わない。これが“デイトナハウス流”なのです。



リビングルームに面した中庭のデッキテラスは南側に位置した絶好のプライベートスペース。ソリーサークルのシンボルツリーが空間にメリハリと色合いを添え、直線に伸びた庇もミッドセンチュリー感覚満点。毎日朝食をここで、と思いたくなるほどです。